

次の時代へ「樗」つなぐ

問合先 広報課

現在、世界で唯一「元号」を使用している日本。明治以降は天皇一世一元制としており、現天皇の退位により、5月1日からは新元号となります。247番目の元号「平成」も残すところあとわずか。可児市の平成を振り返ります。

- 年月
- 元 1 平成元年可児市成人式
 - 3 帷子公民館開館
 - 4 可児公園内に花トピアオープン
 - 7 公共下水道事業着工
 - 2 3 姫治公民館開館
 - 7 人口8万人突破
 - 10 Lポート可児開館
 - 3 中恵土公民館開館
 - 4 老人福祉センター可児川苑開館
 - 5 ゆとりピア・広見公民館開館
 - 4 3 桜ヶ丘公民館・児童センター開館
 - 4 市制施行10周年
 - 5 4 春里公民館開館
 - 12 ケーブルテレビ可児開局
 - 6 夏 異常渇水
 - 11 3代目市長 山田豊氏 就任
 - 7 4 花フェスタ'95ぎふ開催
 - 4 名城大学都市情報学部開校
 - 8 口夕島と友好都市提携を締結
 - 4 花フェスタ記念公園開園
 - 11 ふれあいパーク・緑の丘、可児やすらぎの森開園

- 9 1 人口9万人突破
- 3 ふれあいの里可児完成
- 10 3 歴史と文化の森完成
- 4 川合公民館・考古資料館開館
- 11 4 ささゆりクリーンパーク操業開始
- 4 広見東公民館開館
- 12 8 全国高校総合体育大会弓道競技開催
- 10 さつきバス運行開始
- 14 4 市制施行20周年
- 7 文化創造センター・アール開館
- 15 3 さつき大橋開通
- 17 3 花フェスタ2005ぎふ開催
- 5 可児郡兼山町と合併 人口10万人突破
- 20 4 多文化共生センター・フレシア開館
- 22 7 7・15豪雨災害
- 11 現市長 富田成輝氏 就任
- 24 4 市制施行30周年
- 5 ぎふ清流国体（女子ゴルフ）開催
- 7 FMらび開局
- 10 全国初 いじめ防止条例を制定
- 10 美濃金山城跡 国史跡指定
- 25 4 Kマナー事業開始
- 26 4 KYBスタジアム開場
- 12 女性消防団の発足
- 27 5 花フェスタ2015ぎふ開催
- 11 オーストラリア・レッドランド市と教育・文化の相互協力協定を締結
- 29 4 荒川豊蔵作陶の地一般公開開始
- 30 5 子育て健康プラザ・マーノ開館
- 31 1 平成31年可児市成人式

平成 PICKUP

バラのまち可児

平成元年、可児公園内に花トピアがオープン。そして花フェスタ'95ぎふの開催期間中には「皇太子ご夫妻」も来場され、バラ園を鑑賞されるなどしました。

平成8年には花フェスタ記念公園となり、英国王国立バラ協会と友好提携を結んだり、国内で初めて世界バラ協会から優秀ガーデン賞を受賞したりするなど、世界有数のバラ園として多くの人に愛されています。

平成17年には、可児市の花としてバラが追加指定されました。



平成“最初”の新成人 スペシャルインタビュー

平成元年1月15日、可児市の平成“最初”の成人式が福祉センターで行われました。この年に新成人を迎え、平成8年から家業の写真館を継いだ可児さんに、ファイダー越しに見てきた平成の可児のまちや人についてお話を伺いました。



可児市のイメージ

都会でも田舎でもなく、伝統もないし長く続くような行事もない中途半端なまち。と20代の頃は思っていた。高校卒業後10年ほど東京や愛知などに住み、再び可児に戻ってきた。それから仕事を通じていろいろなところに行き、地域の伝統や歴史がこんなにもあるのかと気付かされた。また、家庭を持って暮らしていくと、中途半端ではなく「ちよつと」住みやすいまちだと感じた。



建て直す前の可児写真館で家族と



可児写真館3代目店主 可児敦雅さん
可児生まれ、可児育ち。一時は可児を離れたが、平成8年から再び可児に。中高生時代はカメラマンになるなど考えておらず、音楽活動に明け暮れていた。現在も仕事の傍ら不定期でライブ活動をするなど、音楽・文化・芸術に関心が高い50歳。

平成が始まって...

20歳の時は愛知で暮らしていた「バンドで食っていいこと」と夢を追っていた。時代が変わり目など気にもしていなかった。強いて言うなら、実家に帰ってくるたびに広見のまち並みがどんどん変わっていくことに驚かされた記憶がある。

可児に戻ってみようかな

30歳を前に父が体調を崩し愛知の病院に入院した。たまたま当時住んでいたところが近く、よくお見舞いに行った。父の体調も回復した頃、ふと「地元に戻ってみようかな」と思い、その後写真館を継ぐことを決意した。

前職の仕事柄、機械を触るのは得意で、当時アナログフィルムカメラからデジタルカメラへと移り変わる時期だったことか

で、年配者の元気を昔よりも強く感じている。

学び、挑戦

「ゆとり世代」という言葉には、若者はまだまだだなんて批判的に「ゆとり」を解釈していることもある。同じ時代を生きてもそれぞれ世代で思うことや考えること、行動することは違っていると思う。今しかできないこと、この世代も思い切って挑戦してほしい。自分もそうしていきたい。

笑顔が一番

カメラマンとしてはこれからも「子どもたちの笑顔」を撮りたい。子どもの笑顔は元気に安心して暮らせている証拠。可児は住みやすい「ちよつと」いいまちだと思っている。どんな時代になっても人と人が繋がるアナログな仕事をしたいと思いつ。

人の活力

若い頃は50歳を過ぎたらおじいさんとまでは言わないが、隠居をそろそろ考える年頃だなんて思っていた。しかしどうだろう、自分が歳をとっても活発だからだろうか、同年代はもちろん上の世代の人たちも意欲的に仕事や趣味などの活動をしてい



今は懐かしい広見の酒屋



可児写真館提供